

第4回 八王子市景観計画策定等検討会議 参考資料

- 1．第3回検討会議での主な意見
- 2．中間まとめの再構成

平成21年3月6日

1 . 第 3 回検討会議での主な意見

第 3 回検討会議での主な意見の概要

- ・八王子らしさを考える上で、生産緑地などのまちなかの農地や、里山や谷戸の農地など、環境や景観における農地の役割を評価し、位置づけを明確化していくことが大切ではないか。
- ・まちなかの景観として、八王子駅周辺の景観を考えていくことが重要。人々の活動の場としての景観、まちの活力につながる歩行者空間、街路景観をもっと意識して考えていくことが必要だろう。
- ・かつてまちの中心として栄えた甲州街道の景観を考えていくことが重要。一つのまちなみとして、統一したまちのイメージを話し合いながら共有していくことが必要である。
- ・取りまとめにあたっては、八王子らしさとしての固有性、特徴がわかりやすいよう、具体的な場所を示すなど、市民にも伝わりやすいものにする必要がある。

景観を構成する要素の考え方について

- ・景観を構成する要素としてあげているものはそれぞれに関連する部分がある。むしろまちづくりの視点や組織をどうするか等のソフト的な取り組みを重視した構成にしてはどうか。
- ・要素という表現が適切かどうか。考えていくための視点という方がよいのではないか。
- ・多様なものでできているのが八王子らしさであり、総体的に捉えるという方がよいのではないか。
- ・ここでは要素として示し、何を求めているかが分かればよいのではないか。人のアクティビティなども含めて景観として捉えるという視点は必要だろう。

八王子らしさについて

- ・地形的な構造が、八王子の大きな景観の構造の根底にあるものと考え。景観を地形的に捉えるという位置づけがもっと強調されても良いのではないか。
- ・区域によってテーマの設定の仕方も違って来るだろう。具体的な場所や区域、それに応じたテーマとの関係性などが今後は示されてくるのか。
- ・八王子市には、畑、緑、川のイメージがある。これらは市民も共有できることである。あわせて、固有のものとして、高尾山や多摩御陵といった具体的な言葉として示されるとより分かりやすいものとなって来るだろう。

取り組みの姿勢について

- ・姿勢の部分について書き方を工夫する必要がある。上記はおおきなことが 2 点、3 番目の項目は方法論、4 番目は様々な主体が担わなければいけない、といったように整理した方がわかりやすいのではないか。また、市民の共感を得るような語り口とすることも必要だろう。
- ・ここからスタートする、という視点もあってもよいかもしれない。

農地について

- ・八王子市にとって農地は大事なものであると考えている。イギリスでは環境や景観の観点から農地を守るための施策を行っている。
- ・農地への取り組みを積極的に進めることで景観もより良くなっていく可能性がある。
- ・市街化区域内の生産緑地は、周囲に屋外広告物を設置させないなどの指導を行っているという仕組みを活かしていくことが大切。
- ・農地の位置づけをもっと明確にし、施策の中で取り組んでいってはどうか。

- ・八王子らしさという点で、地形も大きい農地をどのように再評価するか、という点も大事。農地は単なる生産の場だけではなく、環境や景観においても役割を果たしているという評価が八王子ならできるだろう。
- ・景観ウォッチングでの視察を通じて、農地と山林については何かしらの対応が必要と実感した。
- ・生産緑地のように住宅地と混在する農地と、里山や谷戸の農地は分けて考えるべき。八王子らしい生産緑地の整え方、里山の整え方を踏み込んで考えていければ、背景となる自然景観との関係もよくなっていくだろう。
- ・山林については、資材置き場等の問題もあるが、手入れを行うということが大切。地域が支える仕組み造りを考えていくことが重要だと考える。
- ・変えないでいくという視点と、変えていくにはどうしたらよいかを考えていくことが大切。

八王子駅周辺について

- ・八王子駅前のマルベリーブリッジは先ず手を付けるべき所と強く感じる。まちには色々な資源があり、お金を使わなくても工夫次第で良くなる。
- ・デザインや色彩の統一といったこと以外に、音も重要な要素と考える。夕焼け小焼の他にも八王子に因んだ音楽はたくさんある。
- ・マルベリーブリッジは周辺の施設に直結しておらず非常に不便だと感じている。また、近年デパートが少なくなり、今後駅周辺がどのようになっていくか心配。
- ・駅周辺は歩行者空間がしっかりしていない。昔は裏通りが良い歩行者空間になっていたが、今は車通りになっており歩きにくい。
- ・唯一ユーロードが歩行者道路になっているが、その他は車の通行で歩行者空間が分断されている。歩行者空間に関するモデル的な取り組み、といったことはできないだろうか。
- ・景観としても、賑わいの場、人々の活動の舞台として活力をまちの中に生み出していくことを考えていくことは重要。

甲州街道・アーケードについて

- ・雨が多い日本で、傘をささずに歩行できるという点で商店街のアーケードは必要と感じる。ただ歩行者空間の構造物としての安全性など心配な面もあり、どちらがよいのか。
- ・まちの中心は人であり、主役である歩行者の環境を考えるとというのが主流。今あるものを取り除くのは抵抗があるだろうが、撤去して良かったというケースもある。
- ・アーケードには古めかしいイメージがあり、現在のように町ごとに違うものが設置されているのは良くない。アーケードを撤去して空間を大きく見せる方がよいのではないか。
- ・沿道の建物の状況なども含めて、現状のようなアーケードのあり方であれば、むしろ無い方がよいのではないか。
- ・町同士で共通したまちのイメージを持つことが大切。統一したイメージを話し合いながら共有しデザインを考えていくことが重要と思う。
- ・商店街の数が多いということも問題ではないか。ある程度の数で統合し、リーダーシップを発揮できる体制を考えていく必要があるのではないか。
- ・周辺地域からも人を呼ぶのであれば甲州街道を一つの街並みとして整えていく必要がある。
- ・甲州街道が寂しくなってきた原因として、マンションが増加し、商店の連続性が途切れ、開店時間もバラバラになってしまっていることが大きいと考える。

その他のテーマ等

- ・人々の活動の場が結果として景観として表れてきている。
- ・八王子は自然の骨格はしっかりしていて分かりやすさを感じるが、後からつくった道路などはわか

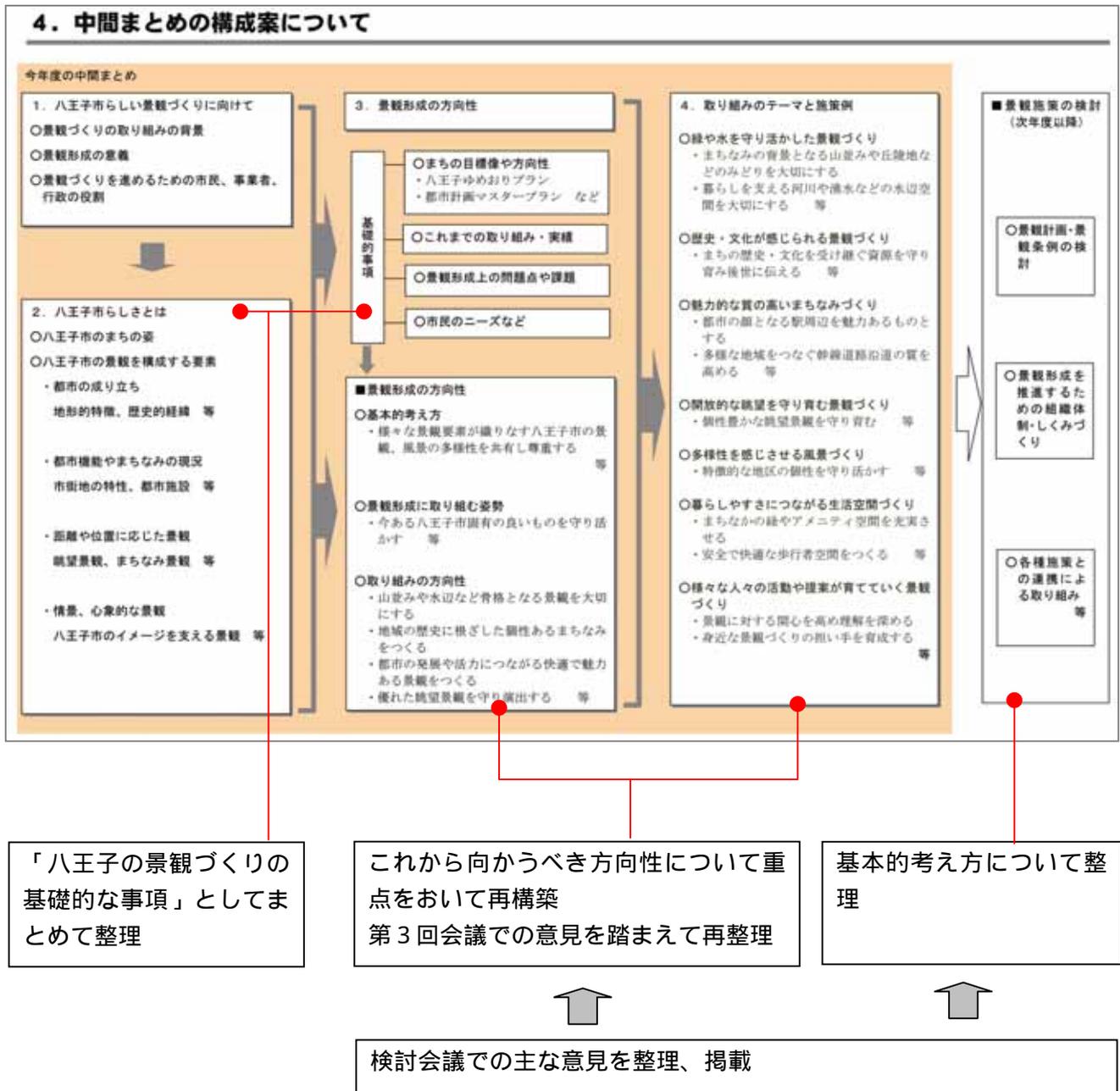
りにくさを感じる。道路は景観を体験する場であり、「地」の部分として整えていくことが大切。街路景観をもっと意識して考えていくことが必要ではないか。

- ・他、八王子には鉄道路線が多く、車窓の風景などは最も日常的に意識する景観であり、重要なことだと考えられる。
- ・中心市街地は、景観というよりもまちづくりの問題ではないか。景観とまちづくりとで意見がぶつかることもある。行政の横断的な連携とあるが、ここはもう少し踏み込んだ方がよいのではないか。
- ・景観が総合行政といわれることから、これまでの縦割りの仕組みの中で取り組んでいくことは困難。この部分は意識して書いておくべきだろう。
- ・行政内部での連携も大変なのは重々承知している。どうしたら調整できるか、何が問題かを明らかにしていくべき。
- ・この会議は、八王子らしい景観をつくろう、というものなので、もっとわかりやすい八王子ならではの表現をしてほしい。
- ・八王子の特徴を捉えた推進方策も考えられる。学校教育との連携といった中には、市内に大学が多いという特性を活かすこともあるだろう。

2. 中間まとめの再構成

第3回検討会議で示した「中間まとめの構成」について、討議での意見を踏まえ、これから向かうべき方向性について重点をおいて再構築する。

第3回検討会議討議資料より



「八王子の景観づくりの基礎的な事項」としてまとめて整理

これから向かうべき方向性について重点をおいて再構築
第3回会議での意見を踏まえて再整理

基本的考え方について整理

↑

検討会議での主な意見を整理、掲載

↑